

令和4年度 兵庫県立明石北高等学校 学校自己評価 【結果】

【実践目標の達成状況評価】 4：よくできている 3：できている 2：あまりできていない 1：できていない \*：わからない  
 【評価基準】 4段階評価の平均 A：3.0以上 B：2.8以上 C：2.6以上 D：2.5以下 【評価者（回答数）：36人】

領域等	評価の観点	評価項目	実践目標（指標）	平均	評価	平均のup/down	
学校運営	開かれた学校づくり	1 家庭や地域への情報発信	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.5 (3.3)	A (A)	↗	
		2 学校評議員を活用した学校運営の推進	学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	3.2 (2.9)	A (B)	↗	
	生徒指導	3 生徒指導方針の確認と指導体制の推進	登下校マナーの向上と事故件数の削減に向け、全教職員の共通理解を基盤とした指導を行う。	3.2 (3.2)	A (A)	→	
		4 生徒の内面の理解を図る指導の工夫	適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.3 (3.1)	A (A)	↗	
		5 いじめの未然防止	いじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌づくりに努める。	3.4 (3.2)	A (A)	↗	
	進路指導	6 進路指導体制の充実	進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実に努める。	3.4 (3.1)	A (A)	↗	
		7 主体的な進路選択能力の育成	個に応じた進路相談を計画的に行い、生徒に自らの「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	3.3 (2.9)	A (B)	↗	
	教職員の資質向上	8 計画性を持った研修の実施	学校の諸課題、特にICT機器の活用推進に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.1 (3.4)	A (A)	↘	
		9 社会の変化に対応した教育観の育成	学力の三要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）の育成を目標とした授業改善に取り組む。	3.1 (3.1)	A (A)	→	
	危機管理体制の整備	10 実効ある危機管理マニュアルの策定	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	2.9 (2.6)	B (C)	↗	
		11 教員の実践的な研修・訓練	不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。	2.6 (2.2)	C (D)	↗	
	選択項目	学校運営全般	12 校務分掌と協働体制の確立	学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	3.2 (3.0)	A (A)	↗
			13 勤務時間の適正化（働き方改革）推進	勤務時間の適正化（「ノ一部活デー」の取組を含む）を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	2.9 (2.5)	B (D)	↗
教育課程	共通項目	14 自ら学び自ら考える力の育成	令和4年度より実施される新学習指導要領を念頭に、生徒の興味・関心に応えられる特色ある教育課程を編成（検討）する。	3.1 (2.9)	A (B)	↗	
		15 基礎・基本の定着	「学習のための基本的スキル」の育成と、主体的・対話的で深い学びを実現するための教授方法を創意工夫する。	3.2 (2.9)	A (B)	↗	
		16 総合的な探究の時間（課題研究）	批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力からなる「探究力」を持った生徒の育成に努める。	3.2 (2.8)	A (B)	↗	
		17 個に応じた学習指導の徹底	「診断的評価」「形成的評価」の観点を取り入れることにより学習評価の精度を高めるとともに、「観点別評価」の普及と充実に取り組む。	3.0 (3.1)	A (A)	↘	
	選択項目	特別活動（学校行事等）	18 自主的・実践的な活動の活性化	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	3.3 (3.1)	A (A)	↗
19 学校行事の精選と行事内容の充実			学校行事（高校生ふるさと貢献活動事業を含む）の精選と行事内容の充実を図る。	2.8 (2.7)	B (C)	↗	
課題教育	共通項目	20 防災・安全教育	防災教育に係る指導力・実践力の向上	3.0 (2.5)	A (D)	↗	
		21 人権教育	人権教育推進体制の充実	3年間を見通し、生徒の発達段階や関心に応じた人権LHRを計画的に実施する。	3.3 (3.1)	A (A)	↗
	選択項目	22 情報教育	情報活用能力と情報モラルの育成	生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	3.2 (3.0)	A (A)	↗
		23 環境・福祉教育	環境教育の推進	ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	2.9 (2.8)	B (B)	↗
	独自項目	学校の個性化・多様化	24 第3期SSH2年次の事業推進	【自然科学科】各教科・科目でSTEAM教育をベースとした探究的活動（課題研究を含む）の充実を図る。	3.3 (3.2)	A (A)	↗
25 SDGsの理念の教育活動全般への普及			【全校】各教科・科目の授業及び特別活動等にSDGsの視点を取り入れ、17の目標と関連付けた実践を行う。	3.1 (2.7)	A (C)	↗	
【総合評価】				3.1 (2.9)	A (B)	↗	

令和4年度学校評価 教員・生徒・保護者による評価結果比較表 【評価基準日：令和5年2月10日】

【教職員(行動指標)】	4:そう思う	3:どちらかといえばそう思う	2:どちらかといえばそう思わない	1:そう思わない	*:わからない
【生徒・保護者(成果指標)】	4:そう思う	3:どちらかといえばそう思う	2:どちらかといえばそう思わない	1:そう思わない	*:わからない
【評価基準】	4段階評価の平均 A:3.0以上 B:2.8以上 C:2.6以上 D:2.5以下				

領域等	評価の観点	教職員	平均	評価	生徒	平均	評価	保護者等	平均	評価
学校運営	開かれた学校づくり	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.5	A	学校ホームページや学年通信、Google Classroom等で、必要な情報が得られている。	3.1	A	学校ホームページや学年通信等で、必要な情報が伝えられている。	3.1	A
		学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	3.2	A						
	生徒指導	登下校マナーの向上と事故件数の削減に向け、全教職員の共通理解を基盤とした指導を行う。	3.2	A	交通ルールやマナーを守り、安全に登下校している。	3.5	A	子どもは基本的な生活習慣や交通徳が身につけている。	3.3	A
		適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.3	A	先生方には、不安や悩み事を気軽に相談できる雰囲気がある。	2.9	B			
		いじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌づくりに努める。	3.4	A	先生方からは、いじめを生まない、許さないという姿勢が感じられる。	3.1	A	学校全体でいじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める姿勢が感じられる。	3.0	A
	進路指導	進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実を努める。	3.4	A	進路選択や進路実現に向けた学習支援や行事、個別面談が充実している。	3.1	A	子どもの主体的な進路選択や、進路希望の実現に向けた情報提供や支援体制が充実している。	3.0	A
		個に応じた進路相談を計画的に行い、生徒に自らの「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	3.3	A						
	教職員の資質向上	学校の諸課題、特にICT機器の活用推進に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.1	A						
		学力の三要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等)の育成を目標とした授業改善に取り組む。	3.1	A						
	危機管理体制の整備	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	2.9	B						
不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。		2.6	C							
選択項目	学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的な経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	3.2	A					子どもの学年の経営方針(どのような生徒を育てたいのか)を理解している。	2.9	B
	勤務時間の適正化(「ノー部活デー」の取組を含む)を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	2.9	B	「ノー部活デー」の取組がなされ、バランスのとれた生活を送っている。(3年生は振り返って回答)	2.9	B	「ノー部活デー」の取組により、子どもはバランスのよい生活を送っている。(3年生保護者は振り返って回答)	3.0	A	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	令和4年度より実施される新学習指導要領を念頭に、生徒の興味・関心に応えられる特色ある教育課程を編成(検討)する。	3.1	A	生徒が興味・関心を持って、主体的に学習に取り組める授業が多い。	2.9	B	子どもの興味・関心に対応した特色ある教育活動が行われている。	2.9	B
	基礎・基本の定着	「学習のための基本的スキル」の育成と、主体的・対話的で深い学びを実現するための教授方法を創意工夫する。	3.2	A		2.8	B	入学時と比較して、子どもには主体的に学習に取り組む姿勢が育っている。	3.0	A
	総合的な学習(探究)の時間(課題研究)	批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力からなる「探究力」を持った生徒の育成に努める。	3.2	A	2年生・1年8組対象)総合(課題研究)の時間を通じて、思考力・判断力・表現力が高められている。	2.8	B			
	個に応じた学習指導の徹底	「診断的評価」「形成的評価」の観点を取り入れることにより学習評価の精度を高めるとともに、「観測別評価」の普及と充実に取り組む。	3.0	A	生徒一人一人の実態に応じて、きめ細かな学習指導と評価が行われている。	2.7	C	子どもに対して、個に応じたきめ細かな学習指導と評価がなされている。	2.7	C
	特別活動(学校行事等)	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	3.3	A	学校行事や生徒会行事、ホームルーム活動に積極的に参加(協力)している。	3.3	A	各種学校行事の内容や実施時期は満足できるものである。	3.0	A
課題教育	防災教育・安全教育	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	3.0	A	防災に関する訓練や授業等を通じて、防災・減災の意識を高めることができています。	3.1	A			
	人権教育	3年間を見通し、生徒の発達段階や関心に応じた人権LHRを計画的に実施する。	3.3	A	互いの違いを認め合い、自他を大切にしようとする態度が身につけている。	3.4	A	子どもには、互いの違いを認め合い、自他を大切にしようとする態度が備わっている。	3.2	A
	情報教育	生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	3.2	A	スマートフォンやSNSを利用する時は、ネット上のルールやマナーを守っている。	3.6	A	子どもはスマートフォンやSNS利用時のルールやマナーが身につけている。	2.9	B
	環境・福祉教育	ゴミや資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	2.9	B	校内清掃に励み、身近な生活環境を美しく保とうと意識している。	3.4	A	子どもたちの生活環境・学習環境はよく整えられている。	3.0	A
	学校の個性化と多様化	【自然科学科】各教科・科目でSTEAM教育をベースとした探究的活動(課題研究を含む)の充実を図る。	3.3	A	【1年8組対象)STEAM教育では、教科の枠を超えた体験的な学びに「ワクワク」している。	3.4	A			
独自項目	【全校】各教科・科目の授業及び特別活動等にSDGsの視点を取り入れ、17の目標と関連付けた実践を行う。	3.1	A	SDGsを理解し行動することは、自分にとって身近な課題である。	3.1	A	学校教育を通して子どもがSDGsに興味・関心を向けることは大切なことだ。	3.4	A	

【総合評価】	3.1	A	【総合評価】	3.3	A	【総合評価】	3.0	A
	(2.9)	(B)		(3.1)	(A)		(3.0)	(A)

( )はR3年度